

第2回岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略会議 議事要旨

1 日時

令和3年3月25日(木) 15:30 ~ 17:20

2 場所

4階 特別会議室

3 出席者

【委員】

氏名	所属・職名
浦田 真由	名古屋大学大学院情報学研究科 講師
遠藤 守	名古屋大学大学院情報学研究科 准教授
尾関 智恵	愛知工科大学工学部 准教授
佐野 雅哉	(一財)岐阜県市町村行政情報センター 事務局次長
澤 尚幸	(一社)Community Future Design 代表理事
多田 憲生	(株)岐阜多田精機 代表取締役社長
辻 博文	(一社)岐阜県情報産業協会 会長
松島 桂樹	(公財)ソフトピアジャパン 理事長 岐阜県IoTコンソーシアム 理事長
吉田 香央里	ヤマガタヤ産業(株) 取締役

【オブザーバー】

氏名	所属・職名
田代 達生	(株)十六総合研究所 主任研究員
中村 紘子	(株)OKB総研 主任研究員

【県出席者】

氏名	所属・職名
平木 省	副知事
横山 玄	総務部長
阿部 修二	総務部次長(情報化推進担当)
海蔵 敏晃	総務部情報企画課
布施 明彦	行政管理課長

4 議事概要

【1】 行政(県庁)のデジタル化の取組みについて

- (1) 岐阜県における行政手続のオンライン化方針(中間まとめ)
行政管理課長より配布資料をもとに岐阜県における行政手続のオンライン化方針について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【澤委員】

- 行政手続のオンライン化にあたって、利用者視点で使いやすいものになっているか、そのための対策はあるのか、教えてほしい。

【行政管理課長】

- 多様な行政手続があり、それに応じたオンライン化が必要となる。手続きをする方(ユーザー)にとって使いやすいオンライン化を周知し進めていきたい。

【副知事】

- ユーザー側にとって使い勝手の良いものでないといけない。委員の方々から、ユーザービリティを確保するための手立てがあるようなら紹介いただきたい。

【澤委員】

- 神戸市では、窓口案内をデジタル情報として蓄積することで、こういった仕事をどこの部署が行っているのかが見える化している。自治体によってそういった事例はあるかと思う。

【松島座長】

- ・こういったシステムのテストは専門家目線で行われるが、一般市民目線では行われないことが多い。一般市民目線でのテストを組み込むことを検討してほしい。

(2) 県庁のデジタル化について

情報企画課長より配布資料をもとに、AI・RPA、テレワーク端末、Web会議端末、電子入札、基幹システム刷新の取組について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【辻委員】

- ・県庁の基幹システムについて、全国的に共通システムで行う方向性はあるのか。

【情報企画課長】

- ・市町村事務については共通化する動きはあるが、県の基幹システムについて共通化していく動きは、今のところない。総務省はクラウド・バイ・デフォルトという形で県、市町村含めて標準化・共通化していく考えであるため、時間はかかるかもしれないがいずれクラウドベースで統一されると考えられる。

【松島座長】

- ・県税関係も特に計画はないのか。

【情報企画課長】

- ・今のところ計画はないと聞いている。

【澤委員】

- ・基幹システムについて手を付けているのは良いことだと思う。そのまましっかり進めてほしい。
- ・テレワークに関して電子メール等の1対1で行う同期型から、チャットなどのコミュニケーションツールを使った非同期型への仕事改革は着手しているのか。

【情報企画課長】

- ・テレワーク端末や職員用パソコンにはSkype for businessを標準装備しておりチャットやテレビ電話が可能であるため、テレワークであっても情報共有がしやすくなった。

【澤委員】

- ・オンラインでの打合せでも仕事が進むと思うが、SlackやLoGoチャットなどのソフトで行われる非同期型の情報共有が活用されれば、より仕事の効率化が進むと思う。

【総務部長】

- ・チャットの浸透はまだこれからといった状況。チャットの有効活用は今後研究して取り入れていきたい。

【松島座長】

- ・メールwith添付ファイルzipについて賛否両論あると思うが、どのような考え方が教えてほしい。

【情報企画課長】

- ・現在職員にアンケートをとっている状況。途中経過報告ではあるが、6割の職員がzip暗号化を引き続き行ってほしいと言っている。職員の意見を踏まえながら、新しい方式も含めて導入について検討していきたい。

【松島座長】

- ・電子調達などにある添付ファイルについて、内容を確認するため結局受け取った側が紙印刷することがある。そのことについてはどうか。

【情報企画課長】

- ・電子で受け付けた以上、紙で印刷するというのは無くしていかないといけない。電子で受け取ったものは電子で完結する。そういった流れでデジタル・トランスフォーメーション

を推進していきたい。

【遠藤委員】

- ・ 総務省からのセキュリティクラウド見直しについて検討状況はどうなっているか。

【情報企画課長】

- ・ 来年度、情報セキュリティクラウドの更新を予定している。昨今のクラウド化の流れでβモデル等があるが、現状、来年度に関してはαモデルでの更新を考えている。しかし今後βモデル等への切り替えを検討予定である。

(3) オープンデータその1【委員発表】

浦田委員より配布資料をもとにオープンデータ利活用について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【松島座長】

- ・ 行政職員、住民共にデジタル化に向けたリテラシーが足りないとあるが、リテラシー教育として何を学ぶのが良いのか教えてほしい。

【浦田委員】

- ・ 何をとはっきりしたものがあるわけではないが、様々なデジタル化に対して連携して取り組む形を作り、小さなものでも良いので取り組み、結果を出していく。まずは挑戦し、実際に動かしていくことが大事かと思う。

【松島座長】

- ・ 集合教育で何かを勉強するというのではない、ということだね。

【田代オブザーバー】

- ・ 行政職員にも非常にリテラシーの高い人が1人や2人はいる。そういったキーパーソンがいないと何も進まないが、居るならば現場を変えられる存在だと感じている。行政DXに当たっては、こういったキーパーソンを発見できるかがとても重要な要素だと思う。

【多田委員】

- ・ データ連携が大事だと思っており色々取組んでいるが、その中で連携の速度、データ通信の速度がとても大事だと思っている。そういった基本的なところをしっかり教育しないと最終的にデータ連携したが、うまく運用することができないことになりかねない。そういう観点で、各部署にリテラシーの高い人が1人はいないといけない。県の取組みとしてリテラシーをあげるような活動も、DX推進のアウトプットの一つとしてもらえるとうれしい。

【副知事】

- ・ 電子納税に置き換えて例えると、第一段階としてコンビニ納付があった。これは窓口の分散化である。次の段階としてスマホによる電子納税があった。こういったデジタル化を目に見える形でつくっていかなければならない。
- ・ 職員へのリテラシー教育をしっかりと行わなければならない。
- ・ 利用者リテラシーを向上させるには成功体験を積み重ねることが大事。電子納税のような繰り返し行われる事が特に効果的であり、そういった手続きは市町村に多いと思われる。市町村で利用者リテラシーの成功体験が見出せるかが大事だと感じた。

【松島座長】

- ・ 比較的試しやすく、ハードルの低い実証実験をしていけると良いと思う。

(3) オープンデータその2【委員発表】

遠藤委員より配布資料をもとにオープンデータ利活用について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【松島座長】

- ・ 原課よりオープンデータ化の必要性を問われる。そのことについてどうか。

【遠藤委員】

- ・ニーズを発掘するためにはまずはデータのオープン化が必要。オープンデータの利活用には官民での議論と一緒に考えることが大事である。
- ・オープンデータの推進は活用するという。まずは多くのオープンデータを用意することが大事。

【2】 市町村行政のDX支援について

(1) スマホを使ったAIチャットボット・電子申請

情報企画課長より配布資料をもとに岐阜県におけるAIチャットボット・電子申請について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【松島座長】

- ・AIチャットボットなどの仕組みは多くの人が使用することで機能が向上するので、そういった面もプロモーションして認知度を高めてほしい。

(2) 市町村システムの標準化【委員発表】

佐野委員より配布資料をもとに市町村システムの標準化について説明。

(3) マイナンバーカードの普及状況

情報企画課長よりマイナンバーカードの普及状況について説明。その後、委員が説明内容について意見交換。

【松島座長】

- ・民間活用含めて、本人認証としてのマイナンバーカードの利用促進をしてほしい。

【尾関委員】

- ・色々な取組みが県内にあり、それらが県民へ広がっていくための努力が必要かと思うが、私も自分の専門で貢献していきたい。

【吉田委員】

- ・誰一人取り残さないDXという考えについて、県の仕組みに参考しつつ法人としても考えていきたい。

【中村オブザーバー】

- ・県民側のリテラシー不足により、県庁内のDX化は県職員が楽になるだけなのではないかという、誤った理解をされるのではないかと危惧した。DX化の目標として、デジタル化が進むことで有効な時間を生み、県民サービスの質が向上されることが大事。
- ・知事の会見録（または記者会見録）や県議会の議事録を即座に公表するような、広報公聴の面で県民の知りたい情報提供から改善してほしい。

【松島座長】

- ・共通した意見として、利用者視点が大事というのがあった。よくあるのは提供者側が考える利用者視点になりがち。そうならないためにも利用者視点を取り入れるための仕組みが必要。開発プロセスに利用者視点を取り入れるためにも、駆け足で進めるのではなく、県民が参加するテストを行うなど、ゆとりをもって進めてほしい。
- ・次回は委員発言の時間確保をお願いしたい。

【副知事】

- ・各委員の方々がそれぞれのDX像を持っているため、何の話をしているかの整理が必要。
- ・例えば、浦田委員のプレゼン内容はICTの利活用の話や、ビジネスプロセスの変革、またはデジタル化による県民の利便性向上の話とも受け止められる。
- ・多田委員や吉田委員は法人という立場でビジネスモデルなりのカスタマー目線で、DX像を持っていると思われるので、行政が目指しているデジタル化の話と段階が異なる感じがする。
- ・今後はどの視点、どの立場での議論なのかということ意識し、何の話をしているのかを

整理しながら進めていきたいと思う。